

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570101133		
法人名	社会福祉法人 さわやか会		
事業所名	グループホーム 昇陽館		
所在地	山口県下関市長府黒門南町6番54号		
自己評価作成日	平成 24年 11月 14日	評価結果市町受理日	平成25年5月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=35
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成 24年 11月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>関門海峡を眺めるロケーションには、利用者やご家族にも評判が良く、広めのベランダを利用して日光浴やティータイムを楽しみリラックスする事が出来ます。隣接するケアハウスや階下のデイサービスの利用者や家族と交流出来、式番館での催事も参加します。職員の研修意欲も高く、様々な内部研修や外部研修に参加し個人のスキルアップに努め、資格取得へも意欲的に取り組んでいます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域で開催されるレトロ祭りに職員が参加され、利用者も見学に出かけて地域の参加者と楽しみながら交流しておられます。法人主催の夏祭りやクリスマス会に利用者が家族と一緒に参加され、併設施設の利用者や家族と交流される他、事業所の焼き芋大会等に参加される地域の人や高校生と交流されたり、法人施設を訪れるボランティア(琴、コンサート、フラダンスなど)や幼稚園児、高校生(ファッションショー)とも交流を楽しまれるなど、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるように支援しておられます。手形アート、おやつ作り、ポスター作り、折り紙、牛乳パックでのボウリングのピンやマラカスづくり、芋ほり、花や野菜作り、映画上映会、絵を描く、歌を歌う、季節の行事(月1回の誕生会、敬老会、焼き芋大会等)など、楽しみごとや活躍できる場面をたくさんつくり、利用者一人ひとりが張合いや喜びのある日々が過ごせるように支援されています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、生き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を施設内に掲示する事で、全スタッフが意識をし実践に繋げるように努力をしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念を作り、事業所内に掲示し、ミーティング時に話し合い、共有して、ケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	いろいろな行事で地域に出て行ったり、お招きすることで交流を深めるように努めている。	法人の行事(夏まつりやクリスマス会等)に利用者は家族と一緒に参加し、事業所の行事(焼き芋大会等)に、地域住民、高校生、利用者、家族が参加して交流している。地域のレトロ祭りに職員が参加し、利用者は見学に出かけ地域住民と交流している。法人施設に來訪するボランティア(琴、コンサート、フラダンス)や幼稚園児、高校生(ファッションショー)と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方への認知症のレクチャーや推進会議での報告で地域の方への協力や支援に努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	各ユニットリーダーが記入した自己評価表を全職員が目を通し意見を出し合い、管理者・ユニットリーダーがまとめている。各自のケアの振り返りや見直しをおこなっている。	自己評価はユニットリーダーが記入し、職員の意見を聞いて管理者がまとめている。職員はケアの振り返りとしている。評価の意義についての理解はしているとは言えない。具体的な改善への取り組みまでに至っていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の意義の理解 ・評価を活かした具体的な取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で利用者の現状報告や行事計画等を行っている。ご家族、自治会、地域包括支援センター、施設職員の意見を出し合い、今後のサービス向上へと活かしている。	年6回開催し、現状報告、行事報告、外部評価報告、ヒヤリハット・事故報告等を行い、意見交換している。地域メンバー(民生委員、ボランティア)が減少している。意見をサービス向上に活かすまでの話し合いに至っていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域メンバーの検討 ・運営推進会議を活かした取り組み
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町担当者と報告の連絡はしている。また地域包括支援センターとは、運営推進会議や行事の事等で随時連携し合い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市担当課に、ファックスや出向いて、情報交換をする他、法人として協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修への参加、ミーティング等での話し合いで、理解を促している。玄関の施錠に関しては国道に面しており危険な為鍵をかけている。外出したい願望があれば、館内散歩や買い物へ出かけるなどし対応している。またご家族に電話をかけたりするなどし、安心していただけるように工夫している。	マニュアルがあり、ミーティング等で話し合い、職員は身体拘束について理解して、拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロック等に気づいた場合は、その都度、管理者が指導している。交通事故防止等のために玄関に鍵をかけているが、外出を察知した場合は、職員と一緒に法人施設内を散歩したり、外出するなど工夫している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し虐待防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加しているが今まで必要とされる方がいなかった。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の不安等を尋ね、理解・納得していただけるよう説明・話し合いを行う。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見・要望をお聞きし、記録に残している。職員間で情報の共有を図ると共に運営に反映させていくよう努めている。	苦情、相談マニュアルがあり、苦情、相談受付体制、処理手続きを明示し、契約時に家族に周知している。面会時、家族会、電話、運営推進会議時、事業所だより送付時などに意見や要望を聞いている。預り金の使い道についての連絡不足等の苦情について話し合い情報共有を図るなど、運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	空いている時間帯・勤務終了後に意見や提案を聞く機会を設けている。また月1回のミーティングでは、職員同士で意見・提案を出し、話し合いの場を設けている。	月1回のミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日々の業務の中で、聞いている。生け花を行事に取り入れることや服薬ミスなどを防ぐための業務内容の見直しなど、意見や提案を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や勤務状況を把握し、一人ひとりの能力を活かしながら向上心を持って働けるよう職場環境、条件の設備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに応じた研修に参加してもらい、個々のスキルアップに努めている。また社外研修への参加や、日々の業務内容からも知識・経験を増やしながら働いている。	外部研修は、情報を提供し、段階や希望に応じて、勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命報告し、資料を閲覧できるようにしている。法人研修を月2回開催し勤務の一環として1名が参加し、月1回の内部研修で報告して、資料を閲覧できるようにしている。新任職員は法人の研修に参加し、先輩職員が指導するなど、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県宅老所・グループホーム連絡会に入会し、研修会や交流会に1・2名参加している県外の繋がりがある5グループホームとも、情報交換を行っている。そして外部研修にも参加した際、そこで意見交換もおこないながらサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との会話の機会を大切にし、不安や要望等をお聞きする。側に寄り添い、関わる時間を作ることで安心出来る関係作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や家族含めた担当者会議、家族会などで、困っている事・不安・要望などに耳を傾け関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時や担当者会議などでご家族の意向をしっかりと聞き、そしてご本人の思いを聞いて、適切でより必要なサービスが利用できるように情報提供・発信をおこなうように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	配膳、片付け、洗濯物干し、おやつ作りなど、入居者の状態を配慮しながら一緒に作業をおこない、暮らしを支え合う関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からの要望があれば、外出や外泊していただき家族と過ごす時間を大切にしてください。また面会時も、ご家族とゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスやケアハウスに行き、顔馴染みの他職員・利用者様と談話される。また買い物に行った際も、地域の方々と触れ合いながら関係が途切れないように支援行っている。	入居前に利用していた法人のディサービスやケアハウスの知人を訪ねて、馴染みの職員や利用者と交流できるように支援している。家族や親戚、知人等の面会がある他、年賀状、暑中見舞い、電話の支援をしている。家族の協力を得ての法事への出席、外泊、外食など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	簡単な手作業やレクリエーション、会話を通して入居者同士が関わり合いが持てる場や雰囲気を作りながら支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者のアルバムを作り、差し上げている。また、入院している方のお見舞いに伺うなどの付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートやセンター方式、ご家族面会時、ご本人との話の中から、本人の思いや意向を汲み取っている。本人の希望をしっかりと聞き、本人本位に検討している。	日常の関わりの中で思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、連絡ノートに記録しミーティングで話し合い、共有に努めている。困難な場合は利用者の表情やしぐさから職員間で話し合い、本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時ご家族に協力してもらい、センター方式を記入していただいている。また入居後もご家族面会時に、本人の生活歴・馴染みの暮らし方等を把握するよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士の情報伝達を密におこなっている。情報を共有し、一人ひとりの状況の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士ケアカンファレンスを開いたり、ご家族を含めた担当者会議を開いている。それぞれの意見やアイデアを出し合って、現状に応じた介護計画を作成している。	カンファレンスを開催し、本人や家族、主治医、担当者などの意見を参考にして、介護計画を作成している。1ヶ月ごとにモニタリングを行い、要望や状態の変化が生じれば、その都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や状態を記録に残し、気づき等も記入し職員間で情報の共有・介護の見直しに努めている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能を活かし本人・家族の要望を聞き柔軟な支援・サービスに取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援できていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族に希望に応じたかかりつけ医に、定期的な受診・往診を受けている。	本人や家族の希望するかかりつけ医とし、月1回、2週間に1回、週1回とそれぞれのかかりつけ医の往診がある。看護師が利用者の状態を把握し、薬の変更や問い合わせ等についてかかりつけ医にファクスするなど関係を築いている。受診は家族の協力を得て支援し、受診結果を共有する他、緊急時の対応についてはそれぞれのかかりつけ医に連絡し対応するなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専従の看護師が利用者の状態を把握し、定期的な受診、往診の際に医師に相談や適切なアドバイスと治療を受けられるように支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談、アセスメントを通して関係作りに努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化がある時は家族、かかりつけ医と話し合いを繰り返している。日々の健康管理や急変時の対応等、利用者、家族が安心して利用できるよう方針を共有している。重度化した場合には、系列の対応可能な施設へ移行出来ること等の説明も行っている。	重度化や終末期に向けた事業所の方針を、契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族や主治医、看護師、関係者と移設も含めて話し合い、方針を共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	研修や勉強会に参加し、それをもとにマニュアル作成を行っている。また、ヒヤリハットの記入を行い事故の未然防止に努めている。事故が起きた場合は報告書の記入、職員間のミーティングを行い改善策等を話し合い再発防止に努めている。	ヒヤリハットや事故が発生した場合はその日の職員で検討し、報告書を各ユニットに掲示し、ミーティングで話し合い、共有して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。年2回の避難訓練時に救命救急法を学ぶ他、法人の事故防止の研修に参加した職員が伝達研修をしているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的な訓練の実施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回法人施設合同で、避難訓練を行っている。運営推進会議を通じて地域の理解と協力への働きかけを行っている。	サブ)年2回、法人施設と合同で、ハザードマップによる昼間想定避難訓練を実施している。法人内での協力体制はできているが、地域との協力体制はできているとは言えない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言葉かけを行っている。	法人研修に参加した職員が復命し、資料が閲覧できるようにしてあり、人格の尊重とプライバシーの確保について職員は理解し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりのの思いや希望をお聞きし、自己選択・自己決定出来るよう対応をおこなっている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースを大切にし、ご本人の希望に応じて一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしい身だしなみや好きな洋服を選んでいただいている。外出する際はおしゃれな洋服を着て頂いたりしている。月に2回訪問美容があり、希望に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は厨房で作っていただいているが、朝・夕食は入居者と職員と一緒に作っている。食事の配膳や盛り付け、片付けなど、出来る事を分担して行っている。好きな物を聞いたり献立について会話したりして、食事を楽しみに思っていたけようにしている。	昼食は法人からの配食を利用し、朝食と夕食は事業所で作っている。利用者は週2回の食材の買い物や盛り付け、配膳、片付けなど、できることを職員と一緒にしている。献立は利用者の好みを取り入れ、形状も一人ひとりの状態に合わせてミキサー食にするなどしている。利用者と職員は同じテーブルで同じ物を食べ、会話しながらゆったりと食事を楽しんでいる。誕生会のケーキ、敬老会のちらし寿司、ユニット交流会での季節ごとのお菓子作り、おやつ時間の焼きそばやお好み焼きづくり、家族の協力を得ての外出など、食事が楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにあった量や食材の大きさ等を考慮して、対応行っている。水分摂取の声かけはこまめにおこない、お茶を飲まない場合は好む飲み物に変えたり、違う時間帯に飲んでいただきながら工夫し、不足しないように気を付けている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアおこなっている。その人に合ったケア方法を行い、清潔保持に努めている。また義歯を清潔に保てるように保管したり、歯科往診時相談し治療行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し食前・後に誘導を行っている。自立している方は見守りを行い、尿・便意訴えある方は、その時間帯に誘導を行うなどして自立に向けて支援を行っている。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりのパターンを把握し、声かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難時牛乳を飲んでいただいたり、散歩や日光浴をおこない、適度な運動をするように声かけ・機会の提供をしている。かかりつけの主治医に相談し、下剤の服用をおこなっている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一日おきに入浴の声かけをおこない、拒否がある時は無理強いせずに行っている。全介助が必要な方は、毎週月・木曜日機械浴を他事業所に依頼して、個々に応じた入浴をして頂いている。	10時30分から11時30分、13時30分から16時30分を入浴時間として、隔日に入浴しているが、本人が希望すれば毎日入浴できる。入浴したくない人には時間をずらしたり声かけの工夫をしている。利用者の状態に合わせて清拭、部分清拭、シャワー浴、足浴、機械浴での対応をしている。入浴剤を使ったり、湯船で歌を唄うなど、入浴を楽しめるよう支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を大切にしている。日中は出来る限り離床して過ごしていただくが、居室で横になりたいときは横になっていただき、安心して寝れるよう支援行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はファイルされ、職員は薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。服薬時は、ご本人に手渡しし確認しながら配薬している。必要な情報は医師にフィードバックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの生活習歴を把握し、能力に応じた家事仕事等や生活の場で役割を持てるような場を提供している。また好む食べ物や飲み物を提供したり、散歩、レクリエーションを通じて楽しみを持てるような支援をしている。	手形アート、カラー画用紙での季節の壁画づくり、おやつづくり(お好み焼き、焼そば、フルーツポンチなど)、月1回の誕生日会、敬老会、家族会のポスターづくり、芋掘り、焼き芋会、花や野菜づくり、牛乳パックのボーリングのピンづくり、マラカスづくり、折り紙、ボール投げ、映画上映会、体操、洗濯物たたみ、食器洗い、テーブル拭き、絵を描く、歌を唄うなど活躍できる場面づくりや楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望や外に出たい希望がある時は館内や外に散歩に出たり、買い物や季節に応じて行事計画を立て外出する機会を設けている。ご家族の方にもお知らせをし、一緒に出かけられるよう支援している。	ベランダで海を眺めながらの外気浴、ティータイム、散歩、週2回利用者が交代で職員と食材の買い物に出かけている。家族の協力を得て、ドライブ(火の山の展望台)や桜の花見、温泉旅行、法事への出席、外食、外泊など、戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を持ちたい希望があれば、ご家族に伝えて所持していただいている。無くさないように置き場所等、配慮をおこなっている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀ハガキ、暑中見舞いをご家族に出している。ご自分で書ける方は、ご家族宛に書いている。ご家族に電話したい希望がある時は電話をかけに行くなど、やり取りができるよう支援おこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者にとって不快な音や光がないよう配慮をおこなっている。季節に合わせた壁画作りなどにも取り組んでいる。	共用空間は居間、台所と食堂が一体となっており、壁には利用者の写真や季節の壁画が飾ってある。明るい陽が差し込む大きな窓の外はプランターが並ぶベランダで季節ごとの花が咲いて、関門海峡の四季折々の風景や外国船などを眺めることができる。テレビの前のソファやベランダのベンチは一人ひとりの居場所となってくつろぐことができる。エアコンや窓の開閉で温度や換気に配慮し、利用者が居心地よく過ごせるよう支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたいときは、居室で過ごしていたでいる。また、一人ひとりのお気に入りの席や場所を把握し、落ち着ける場所を作っている。気の合う入居者同士で談話や馴染みのある職員とも交流が持てるように工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた家具を持ち込んでいただき、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	タンス、椅子、テレビ、衣装ケース、人形、時計、家族の写真等、使い慣れた物や好みの物を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム昇陽館

作成日：平成 25年 5月 15日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	評価の意義が理解できていないので具体的な改善へ取組めていない。	外部評価に対する理解を深め、評価を活用する。	①大項目（Ⅰ～Ⅴ）を毎月のミーティングに取り上げてガイド集を参考に理解を深める。 ②個人目標を設定して改善に取り組む。	1年間
2	5 36	地域メンバー（民生委員・自治会役員・ボランティア）の増員。活かした取り組み。	運営推進会議の活用と、参加される地域メンバーの増員。地域との連携・協力体制の整備。	①地域からのボランティアを呼びかける。 ②運営推進会議への参加を地域の役員や民生委員、交番、消防他公共施設にも呼びかける。 ③活性化した会議での意見を支援に取り入れていく。	1年間
3	35	職員による伝達研修だけでなく、定期的な訓練の実施。	職員の資質向上（応急処置、初期対応の実践力の強化）	①毎月の課題を設定して、看護師より指導を全員受ける。 ②年2回の合同訓練だけでなく、災害などを想定して訓練を地域のメンバーと行う。	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。